

学校当局、権力(林動隊)に抗し、反撃せよ

本日、登校された全学生の学友諸君！！

六四六衆団交に於て、当局は、掲示板にはりつけた一枚の紙切れによつて、我々の切実な要求を正殺してしまつた。しかし我々は、時間余も、当局の出席を待たせられたけれども、当局は、少数の教授で、お茶どに「そつと企てた」が、責任者は、一切登場せず、林動隊ド入で答えたのだ。我々は、最後の屈辱を正当な論議を基質とした抗議行動に転じて、圧倒的な学友のデモンストレーションをもつて勝ち取つた。しかし、学友諸君！！この時、職員が犯罪的にモニターで学友の一人に切りつけ、負傷させたのだ。そして又、多くの学友が、職員、右翼、体育会による傷つけられたのだ。

当局が話し合いを一方的に放棄したことは、我々の抗議行動以外には、我々の闘いの進展のありえないことを明らかにした。そして、更に又「良法之知性」の本質を全面的に暴露したのだ。今こそ、我々の闘いが、専断の年の暗い抑圧と反动の丁度打ち砕く闘いであり、中教審答申—大学立法のモデル校を粉砕しぬく闘いであること、確認しなければならぬ。三十六名の国家権力—林動隊による、不当逮捕を弾劾しなければならぬ。権力と当局が一体となり、職員が学友を権力に支配し殺しているのだ。我々は教職員暴力団、右翼、体育会更に国家権力を粉砕しぬく以外に我々の闘いが、一歩も進まないことを確認しなければならぬ。だが今、当局は体育会、右翼、職員を使って戒厳令をひいて、全面的な弾圧攻撃に出ている。しかし学友諸君！！全共斗は三十六名の不当逮捕という状況にあつても、断固として、体育会、職員、右翼、林動隊を粉砕しぬいて行くであろう。我々は、権力、当局がどんなに暴力的な、全くの偽マンゴシかない反暴力デモンストレーションをもち、弾圧しようとも、又暴力的に弾圧しようとも、復讐の、犯罪的な本質を、はつきり見抜いて行くし、闘いの正当性、正義性を確認するが故に、全共斗は最後の最後まで闘いぬいて行くことを、はつきりと宣言しようではないか。

全この学友はクラスゼミサークルに於て、当局の犯罪性と国家権力の弾圧攻撃に対し、抗議文をもち、反撃しなければならぬ。全この学友は各斗争委員会に結束し、壮烈な反撃を開始せよ。全共斗は、学内反革命を、大衆的暴力斗争に上る粉砕しぬいて行くであろうし、最後の最後まで、非妥協的に闘いぬいて行くことを宣言する。

抑圧された暗い丁度、自己の手によつて切りぬいて行くのではないが、決然することは、当局、権力を救うこと以外の、何ものでもないのだ。

全この学友諸君！！当局の甘言に惑わされてはならぬ。九項目、大学立法を一切語らずして、全面的な弾圧体制を—ける攻撃—て来るその本質を見抜き、闘い抜いて行くことを、はつきりと確認しなければならぬ。

クラスゼミサークルに於て抗議文をもちて起て、全共斗。